

浜名湖ボート転覆半年

寄贈された絵と「花菜文庫」の前に集まった同級生ら

中学校に

「花菜文庫」

生前好んだ浜松の画家 絵を贈る



浜松市の浜名湖で今年6月、愛知県豊橋市立章南中学1年生の生徒らが乗った手こぎボートが転覆した事故から18日で半年。亡くなった西野花菜さん(当時12歳)が生前好んだ浜松市中区在住の画家ゆみんぼさん(24)の絵が、同中学に飾られることになった。絵には「花菜のことや命の重みを忘れないで——」との、遺族の願いが込められている。

ゆみんぼさんは県立静岡文化芸術大を卒業後、浜松市内のアトリエを拠点に、絵画や空間アートなどの創作活動に取り組んでいる。2人が直接顔を合わせたことはないが、花菜さんは生前、ゆみんぼさんの個展に足を運んだりポストカードを部屋に飾ったりと、明るい色づかいの画風をとても気に入っていたという。

両親が事故後、花菜さんが好きだった本やCDなどを本棚に収めて「花菜文庫」と名付け同中学に寄贈しようとした。その際、「花菜は明るい子だったから本棚の周辺も華やかに彩りたい」(父・友章さん)と思

い立ち、絵の提供を依頼した。ゆみんぼさんは快諾し、花菜さんの人となりを伝えるためにイメージに合わせて、

18日、同中学で「花菜文庫」の寄贈式が行われ、完成したばかりの本棚いっぱい詰められた文庫などとともに、絵も贈られた。本棚は、花菜さんあての手紙を投函できるポスト付きの特注品。一級建築士の資格を持つ花菜さんの母光美さんが図面を引き、家具メーカーを営むゆみんぼさんの母西河和子さん(44)が製造を引き受けた。ゆみんぼさんは、寄贈式に出席後、花菜さん宅を訪れ祭壇に線香を手向けた。横から光美さんが、「やっ」とゆみんぼさんに会えたね」と遺影に語りかける様子を見て、ゆみんぼさんは「花菜ちゃんが喜んでくれ

仲間のもとに「花菜文庫」

浜名湖ボート事故半年

今年6月、荒天の浜名湖(静岡県)で愛知県豊橋市立章南中学校の生徒と教諭が乗った手こぎボートが転覆した事故から半年がたった18日、事故で亡くなった西野花菜さん(当時12)の両親が中学校に寄贈した文庫の除幕式があった。同級生や保護者ら約50人が集まり、石田颯さん(13)が「花菜さんと事故のことはこれからも忘れません」と話した。文庫の設置は、花菜さんが章南中にいた証しを残し、同級生への感謝を形にしたいという両親の思いから実現。1級建築士の資格を持つ母親の光美さんが設計し、図書室に置か



図書室に設けられた「花菜文庫」。同級生らが本や楽譜を手に取り、花菜さんをしのんでいた=18日、愛知県豊橋市の章南中学校、山田写す

両親、中学校に寄贈

れた。「花菜文庫」と名付けられ、花菜さんが好きだった本や吹奏楽の楽譜、同姓同名でファンだったという歌手西野カナさんのCDなど約270点が収められている。両親は文庫に「誓いの言葉」を添えてほしいと学校側に依頼した。だが、「浜名湖で13歳という若き命を失ってしまった」という学校側の原案からは、学校教育の現場で事故を起こしたという当事者意識が感じられなかったため、断念したという。父親の友章さん(51)は「亡くなった時の娘の年齢を間違えるのはまだいい。だが、事故を風化させず、再発を防ぐ」と願って文庫を寄贈した私たちの思いは届いていない」と話した。(山田雄介)

花菜ちゃんを忘れない



完成した花菜文庫の本を手にする同級生=18日、愛知県豊橋市章南中で

浜名湖ボート転覆

浜松市の浜名湖で六月十八日、野外教育活動中のボートが転覆し、愛知県豊橋市章南中一年の西野花菜さん(当時12)が亡くなった事故で、花菜さんの母親の光美さんが制作してきた「花菜文庫」が完成し、事故から半年の節目となる十八日、同校図書室で文庫の寄贈式があった。自宅で静かに娘のことを思いたいという両親の代わりに、制作に協力し

母ら「文庫」を寄贈

た建築士西河和子さん(44)＝同市伊古部町＝が式に出席。「いつまでも花菜ちゃんのことを忘れないで」と同級生二十人に呼び掛けた。文庫は縦一・五段、横一段。光美さんが「娘の生きていた証しを残したい」と友人の西河さんに呼び掛け、七月から作り始めた。書棚に花菜さんが好きだった同名の歌手西野カナさんのCDや本など二百七十点が並ぶ。下段には花菜さんと連絡が取れるように、手紙を投函するポストも。その後、同級生が次々に本やCDを手にとった。泣きながら花菜さんをしのぶ女生徒もいた。自宅取材に応じた花菜さんの父親の友章さん(51)は「花菜文庫が完成したことをうれしく思います。学校関係者が事故の重大さを再認識し、再発防止に努めてほしい」と話した。

2010.11.6 社会

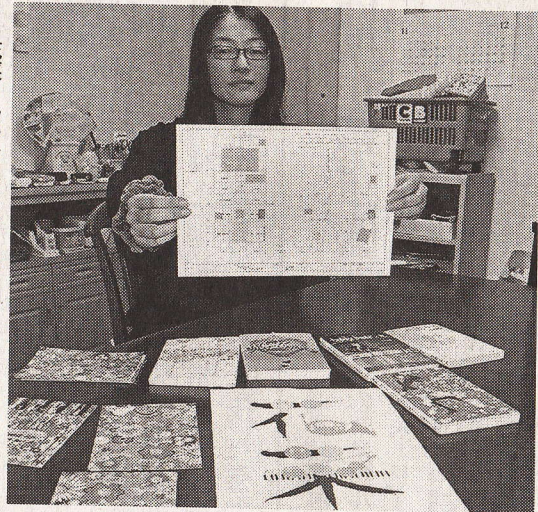
(第3種郵便物認可)

2010.11.6 中日(静岡)

「娘のこと覚えていて」

浜松市の浜名湖で六月、野外教育活動中のボートが転覆し、愛知県豊橋市草南中一年の西野花菜さん(当時一三)が亡くなった事故で、両親らが花菜さんをしのぶための文庫を制作している。花菜さんの好きだった本やCDなどを収めて母校の図書室に設置する。母親の光美さんは「友達が手にとって娘のことを思い出してもらえたら」と話す。

浜名湖ボート転覆中1死亡



花菜さんの母親光美さんが設計した文庫の設計図を手にする西河和子さん(左)と愛知県豊橋市で

制作は七月、光美さんが「娘が生きていた証を残したい」と友人の建築士西河和子さん(四四)豊橋市に呼び掛けた。光美さんは一級建築士で、西河さんとは友人同士。花菜さんも西河さんの家具製造会社を訪れるなど家族ぐるみの交流があった。西河さんは花菜ちゃんのために私ができることなら何でも協力したかった」と話す。

豊橋の両親ら計画 母校に「花菜文庫」

費用と設計は光美さん、制作は西河さんが受け持ち、打ち合わせを重ねてきた。文庫は木製で縦一・五尺、横一尺を予定し、年内の完成を見込む。

◇ 「花菜文庫」と名付ける予定で、友達がいづれも花菜さんと連絡を取れるようにとの願いを込め、手紙を入れるポストをつくる。書棚には、花菜さんが大切にしていた少女向け小説などが並ぶとい、今は父親の友章さん(五二)と光美さんが選定を進めている。

◇ 両親らは七日午後一時から、豊橋駅東口で豊橋市に事故の真相究明を求める署名活動を行う。雨天中止。

亡き花菜さん しのぶ「文庫」

遺族ら制作 母校に設置へ

浜松市の浜名湖で六月、野外教育活動中のボートが転覆し、愛知県豊橋市草南中一年の西野花菜さん(当時一三)が亡くなった事故で、両親らが花菜さんをしのぶための文庫を制作している。花菜さんの好きだった本やCDなどを収めて母校の図書室に設置する。母親の光美さんは「友達が手にとって娘のことを思い出してもらえたら」と話す。

浜名湖ボート転覆事故

制作は七月、光美さんと友人同士。花菜さんが「娘が生きていた証を残したい」と友人の建築士西河和子さん(四四)豊橋市に呼び掛けた。光美さんは一級建築士で、西河さん

力したかった」と話す。費用と設計は光美さん、制作は西河さんが受け持ち、打ち合わせを重ねてきた。文庫は木製で縦一・五尺、横一尺を予定し、年内の完成を見込む。

「花菜文庫」と名付ける予定で、友達がいづれも花菜さんと連絡を取れるようにとの願いを込め、手紙を入れるポストをつくる。書棚には、花菜さんが大切にしていた少女向け小説などが並ぶとい、今は父親の友章さん(五二)と光美さんが選定を進めている。

◇ 両親らは七日午後一時から、豊橋駅東口で豊橋市に事故の真相究明を求める署名活動を行う。雨天中止。